

1 2020年3月期中間期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
2019年9月中間期	62,583	5,021	5,040	2,740

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月中間期	116,818	61,717	46.3

（注）連結子会社は17社

2 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	130,000	△3.5	8,000	△8.3	8,000	△8.5	4,400	△9.3

※ 上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当中間期における事業の概況および下期の見通し

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、消費増税の影響で一時的な減速感があるものの、内需に牽引される形で緩やかな回復が続き、民間設備投資は人手不足や働き方改革を背景とした省力化投資や新技術開発など、構造的要因がもたらす需要の強さに支えられた増加基調を示す傾向にあり、全体としての景況感は、総じて底堅い状況が続いています。

当社グループが属する建設業界におきましては、首都圏の大型プロジェクトの進行や人手不足に対応した省力化投資の増加から、総じて需要は堅調に推移する傾向となりました。

このような環境の下、当社グループでは「私達は 鍛え抜いた現場力と 信頼される技術で 豊かな暮らしを支え続けます」との経営理念のもと、当社を中心として成長基盤の構築、生産性の向上、人材の強化、社会貢献の推進等、グループ共通の課題に取り組むとともに、事業会社においては、各地で発生した未曾有の自然災害に対し、災害復旧に速やかに対応するとともに、ヒロセグループとして早期復旧の一助を担うべく、青森県八戸市と災害協定を8月に締結いたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結業績は、インフラ整備や再開発工事案件が進捗したことによる売上増加により、売上高 625 億 83 百万円、営業利益 50 億 21 百万円、経常利益 50 億 40 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益 27 億 40 百万円となりました。

当下半期の見通しとしましては、工事着工遅れ等の影響が懸念されるものの、公共投資、民間設備投資共に堅調に推移するものと想定しております。連結業績予想につきましては、売上高 1,300 億円、営業利益 80 億円、経常利益 80 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 44 億円を見込んでおります。

以上